

## 「公務における人材育成・研修に関する研究会」第6回議事要旨

1 日時 平成27年11月25日(水) 10:00~12:00

2 場所 人事院第一特別会議室

3 出席者(座長以外は五十音順)

原田久 立教大学法学部教授、鵜養幸雄 立命館大学公務研究科教授、  
藤田由紀子 学習院大学法学部教授

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) 研究会意見の最終とりまとめ
- (3) 閉会

5 意見交換

(原田座長の進行により以下の意見交換が行われた。)

- 報告書では、研修の「集う」価値に着目し、研修を通じた気付きや相乗効果等について言及した。この「集う」という価値に着目することにより効果の検証にもつなげることができるし、「集う」ことから形成されるソーシャル・キャピタルとしての価値を認めることも出来ると思う。
- 特に、研修でのネットワーキングという事象から、「集う」という言葉を抽出し、研修の価値を位置付けることが出来たことは良かったと思う。もちろん「集う」ことで尊大になったり公務員に求められる役割を見失ったりというマイナス面があってはならない。
- 「矜持」というものは、個々の公務員に強い自覚を持つことを要請するものと思う。行政官は、自分たちだけで考えればいいということでは決してなく、ある種の柔らかさ、柔軟さを持ちつつ、他人の意見を聴き、最後は自分で責任を持って一定の判断を下していくのだという心構えが必要だと考える。また、そうして意思決定を下すべき人間として、行政官は身ぎれいにしていることが求められる。そのような要素を含んだ用語として、「矜持」という言葉をうまく位置付けたのではないか。

- この研究会においても行政学者、人材育成分野の専門家、行政官が「集う」ことにより、新たな「気付き」を多く得られたと思う。実際に、われわれ委員同士、また、人事院の事務方と議論する中でハッと気付くこともあり、この研究会自体が「集う」ことの価値を体現していたとも感じている。「集う」ことの価値の検証は難しいが、検証を追い求めていく必要がある。また、「集う」ことの価値について、各府省の方々にも理解をいただけるよう努力していく必要があると思う。
- 公務員研修所への視察の機会をいただき、各府省に採用されたフレッシュマンが短い期間でしっかり成長していることを実感できた。これからの人材育成の中で、関係者がつながりながらよりよい成果を挙げていくことを期待している。
- 良い環境の中で、若い行政官たちが研修に生き生きと取り組んでいる姿が大変印象深かった。今後も研修をますます充実していくべきだし、公務員への人材確保の面でも採用後にこうした良い研修が行われていることを積極的に伝えていくと良いのではないか。

以 上